

令和元年度 授業改善推進チーム活用事業

授業改善推進チーム実践事例集（追補版）

- 授業改善推進チーム活用事業は、教科指導における豊富な経験や実践的指導力を有する授業改善推進教員3名程度が「チーム」となり、1週間を単位として同一の学校に勤務して集中的にティーム・ティーチングを行い、学校全体の授業改善に取り組むことを目的として実施している事業です。
- 本事例は、授業改善推進チームによる学力向上に向けた取組について、「組織的な取組の実践」と「授業改善の実践」をまとめたものです。
- 平成31年2月に発行した「平成30年度 授業改善推進チーム活用事業『授業改善推進チーム実践事例集』」と併せてご活用ください。

	No.	掲載内容	推進チーム (教育局：市町村)
組織的な取組の実践	1	教員が連携、協力して授業改善に取り組める環境の整備	上川：旭川市チーム
	2	全国学力・学習状況調査の分析と活用による取組の共有	十勝：幕別町チーム
	3	チャレンジテストを活用した家庭学習の充実	後志：小樽市チーム (奥沢・桜・銭函)
授業改善の実践	4	「見通し」、「振り返り」、「交流」の位置付けによる学習内容の確実な定着	上川：士別市チーム
	5	指導と評価の一体化による学習内容の確実な定着	オホーツク：紋別市チーム
	6	目標達成に向けた手立ての明確化による学習内容の確実な定着	石狩：北広島市チーム

取組のポイント

- シートの活用による短期的なPDCAサイクルの確立
- 日常的な打合せによる全教員が一体となった授業改善の推進
- 近隣の3校による授業参観及びメンター研修の実施

実践の概要

シートの活用による短期的なPDCAサイクルの確立

今週の授業について、自己課題（がんばりたいこと、授業で力を入れたいところ、困っていること等）や1週間を終えての振り返り（がんばりたいこと、授業で力を入れたところが達成されたか）をご記入ください。

今週の自己課題	(例) 毎時間の見通しと振り返り 学びが実感できる45分に。(楽しかったけど、何がわかったか、学べたか)
今週の振り返り	(例) ほぼ毎時間行うことができたが、振り返りの時間を設けられないこともあった。 国語では意識することができたが、他の授業でも同じ様に意図的に振り返りを設けてい。

- ・教員個々が週ごとに自己課題や解決状況を整理するシートを活用

シートの活用により、短期的な検証改善を行うとともに、シートの蓄積により、教員間で助言しやすい環境を構築しています。

日常的な打合せによる全教員が一体となった授業改善の推進



- ・管理職や主幹教諭等で、定期的に現状と課題を話し合う時間を設定
- ・話し合った内容を全体で共有し、授業改善を推進

週の始め・終わりの打合せや職員室での振り返りなど、授業改善についての打合せを日常的に行う体制を整えています。

近隣の3校による授業参観及びメンター研修の実施



- ・近隣の3校で授業参観を実施し、参観者と授業者の短時間での協議を設定
- ・3校合同の若手教員によるメンター研修を実施



多くの実践から学ぶことができる環境を整えています。

取組の成果

- 自己課題や解決状況を整理するシートを活用したことにより、授業改善に取り組む教員個々の意識の向上を図ることができた。
- 日常的に授業改善について打合せをする場を設定したことにより、全教員がスピード感のある授業改善を進めることができた。

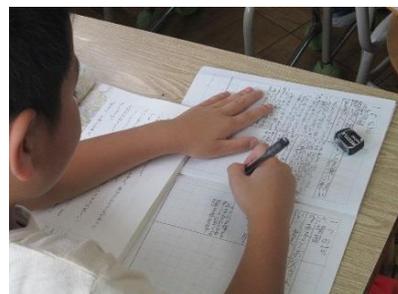
取組のポイント

- 分析結果に基づいた授業モデルの提案
- 学校の課題やニーズに応じた授業改善の推進
- 通信等を活用した授業改善のポイントの共通理解

実践の概要

分析結果に基づいた授業モデルの提案

- ・全国学力・学習状況調査やチャレンジテスト、単元テスト等の結果から、学校の課題を分析
- ・学校の課題解決に向けた授業モデルを作成し、全教員が授業モデルに基づいた授業を実施
- ・授業計画や振り返りを全教員と交流することで課題解決の方法を共有



【本時の振り返りを位置付けた授業】

学校の課題やニーズに応じた授業改善の推進

- ・「説明すること」が課題である学年では、算数科の授業で児童が説明する場面を多く設定するなど、授業改善の方向性を検討
- ・ICT機器の活用に向け、活用方法を研修するなど、積極的な活用を促進
- ・若手教員を対象とした研修等を実施するなど、指導力の向上に向けた取組を推進



【ICT機器を活用した授業】

通信等を活用した授業改善のポイントの共通理解

- ・学校全体の授業改善を促進するため、改善のポイントやそれぞれの実践等を掲載した授業改善に関わる通信を毎週発行し、全教員で共有
- ・授業改善の動機付けを図るため、取組の成果や課題を分析した結果をまとめた資料を作成し、全教員で共有

取組の成果

- 学校の課題の共通理解を図り、全学級で共通した取組を進めたことにより、学校全体の授業改善を促進することができた。
- 授業改善のポイントに基づいた実践を日常的に交流したことにより、教員間でそれぞれの取組や成果、課題等を共有する体制を構築することができた。

取組のポイント

- ほっかいどうチャレンジテストの結果分析による課題の明確化
- 定着が不十分な内容に関する問題の作成及び家庭学習への活用
- 放課後学習の実施による学び直しの機会の設定

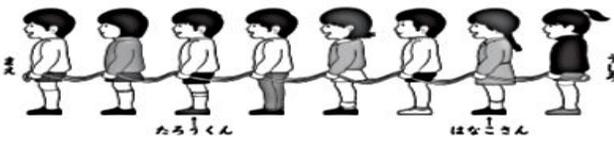
実践の概要

ほっかいどうチャレンジテストの結果分析による課題の明確化

- ・年に3回、ほっかいどうチャレンジテストの結果を分析
- ・分析した結果から、定着が不十分な内容を明確化

定着が不十分な内容に関する問題の作成及び家庭学習への活用

■ 子どもたちが でんしゃごっこをしています。



(1) たろうくんは まえから なんばんめですか。 ばんめ

(2) はなこさんは うしろから なんばんめですか。 ばんめ

(3) はるかさんは まえから 2ばんめです。はるかさんを ○で かこみましょう。

(4) うしろから 3にんを ○で かこみましょう。

(5) でんしゃごっこをしている 子どもたちに、1ばんから じゅんに ばんごうの ついた ぜっけんを くびります。ぜっけんは なんばん まで いきますか。 ばん



- ・定着が不十分な内容に関連する問題を作成
- ・作成した問題を家庭学習で活用

児童が問題に取り組みながらつまづきを克服できるよう、苦手傾向がある内容や領域について、学習内容の系統性を踏まえ、スモールステップで問題を作成しています。

放課後学習の実施による学び直しの機会の設定

- ・家庭学習で解けなかった問題を学び直す放課後学習を実施

児童一人一人がしっかりと理解できるまで学ぶことができる環境を整え、児童の「分かるようになりたい」という思いに対応できるようにしています。



取組の成果

- チャレンジテストの結果を分析したことにより、児童が苦手としている問題が把握でき、個に応じた指導に生かすことができた。
- 個に応じた指導を学校全体で進めたことにより、児童の家庭学習に対する意欲を高めることができた。

取組のポイント

- 見通しを立てたり、学習を振り返ったりする活動の充実
- ねらいを意識した交流活動（学び合う場）の設定

実践の概要

見通しを立てたり、学習を振り返ったりする活動の充実

① ぜん文をよみ、「学しゅうのゴール」「みにつける力」「学しゅうのながれ」をえる。

② 「みづびつて、おもたことやかんがえたことをかく。けいしきだんらく、大だんらくにわける。

③ 「の」のないうをよみとる。

④ 「に」のないうをよみとる。

⑤ 「の」のないうをよみとる。

⑥ 「の」のないうをよみとる。

⑦ かんがえをふかめる。

⑧ 文しゅうのくみたてと、文と文をつなげる

⑨ ことばについてかんがえる。

⑩ 四えにかかれたみづりがあらわしている

⑪ ことについてかんがえる。

⑫ みづりがあらわすことをせつめいする文をかき、はつびょうしあう。

⑬ 「みづりについて、あらわすことばをかく。

⑭ 学しゅうのぜんたいをふりかえり、はつびょうしあう。

【見通し】

- ・単元で身に付ける力を明確にした学習計画を作成
- ・各時間の導入時に児童へ明示

ゴール

かけ算のいみをつかひ、式に表したり、読みとたりとなえたりできる。

力

① かけ算を式に表したり読みとたりする力。

② かけ算をとねえる力。

【振り返り】

- ・指導過程の時間配分を工夫し、振り返りの時間を確実に設定
- ・振り返りの記述や授業での様子からつまずきや定着状況を把握し、指導を改善

学しゅうのながれ

- ㊦ もんだい
- ㊧ みづもり
- ㊨ かだい
- ㊩ みとおし
- ㊪ 自分の考え
- ㊫ こうりゆつ
- ㊬ まとめ
- ㊭ わんしゅう
- ㊮ ふりかえり

学しゅうのふりかえり

この単元の学しゅうのながれをたどりながら、自分なりの学しゅうのふりかえりをかき、はつびょうしあう。

みづりは、きもつがよかつたおもしろいことがあつてよかつた。これは、ぜんしゅうのむづかしいところを、みづりかえり、かんがえ、つなげることができた。

「みづりについて」について

文しゅうと、文を あわせて よむ

文しゅうと、むづびつて よむ

ねらいを意識した交流活動（学び合う場）の設定



【交流活動】

- ・学習内容のより深い理解につながるため、児童一人一人が自分の考えをもつ個人思考の時間を確保
- ・目的をもって互いの考えを説明したり、比べたりする交流活動（学び合う場）を設定

取組の成果

- 単元で身に付ける力を明確にし、見通しと振り返りの活動を充実したことにより、児童が主体的に学ぶ姿が多く見られるようになり、学習内容を確実に定着させることができた。
- 交流活動の目的を明確にしたことにより、児童に対話の必然性を実感させるとともに、学習内容の理解を深めさせることができた。

取組のポイント

- 「評価規準」に基づいた教員の見取りと手立て
- 学びを深める「振り返りシート」の活用

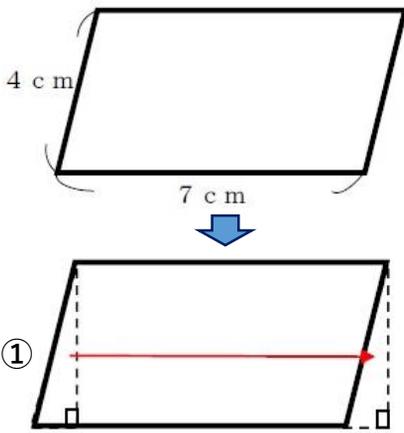
実践の概要

「評価規準」に基づいた教員の見取りと手立て

単元の目標：平行四辺形や三角形の面積の求め方について理解し、それらの面積を求めることができる。

評価規準：平行四辺形の面積の求め方を理解している。

<子どもの学習状況>



【教員の見取り】

- ・底辺と斜辺をかけてしまう児童がいることから、既習の長方形をつくり、「底辺」や「高さ」を意識させる必要があると判断

【教員の手立て】

- ・方眼紙と切り取った平行四辺形を提示
- ・切ったり貼ったりして等積変形を行う中で、「底辺」と「高さ」を意識できるように、ポイントを提示

学びを深める「振り返りシート」の活用

書く活動のための「条件」「作文」「ふりかえり」シート

名前 ()

平	行	四	辺	形	の	面	積	を	求	め	る	時	は	、	三	角	形	を	
動	か	し	て	長	方	形	を	作	る	。	長	方	形	の	面	積	は	た	て
×	横	な	の	で	、	た	て	と	横	は	高	さ	と	底	辺	に	な	り	、
平	行	四	辺	形	の	面	積	の	公	式	は	底	辺	×	高	さ	に	な	る
こ	と	が	わ	か	っ	た	。												

【振り返りを書くときの条件を提示】

- ・「長方形の面積」「たて」「よこ」「高さ」「底辺」を使って書く

平行四辺形の面積の求め方を既習の内容（長方形の面積の求め方）と関連付けて理解しているか見取るために、振り返りを書くときの条件を提示しています。

取組の成果

- 児童のつまずきを見取って即座に手立てを講じるなど、指導と評価の一体化により、学習内容を確実に定着させることができた。
- 既習の内容と関連付けて振り返りを書かせたことにより、理解が図られたかを見取り、指導を改善することができた。

取組のポイント

- 児童のつまずきに対する手立ての明確化
- 児童が自分の考えを説明する場面の設定
- 交流場面の目的の明確化

実践の概要

児童のつまずきに対する手立ての明確化

- ・校内研修において、学級ごとの児童の実態に応じて本時の目標を達成させるためのつまずきに対する手立てを検討し、全教員で共有

つまずきに対する手立て

- つまずきの原因を明らかにする。
- 解決の参考となる教科書やノートの記述を示す。
- 児童が考えを説明する場面を設定する。
- 交流の目的を明確にする。

児童が自分の考えを説明する場面の設定

- ・算数科の授業において、計算方法や考えた手順等を説明する場面を意図的に設定
- ・「途中の式はなぜそうなるのか」などの発問により、説明した児童の考えを全体で共有



【自分の考えを説明する場面】

交流場面の目的の明確化

- ・「自分と友達のを比べる」、「分からないことを明確にする」など、児童が交流の目的や必要性を実感できるよう工夫
- ・発表の仕方や聞き方を確認



【目的を明確にした交流場面】

取組の成果

- 児童のつまずきに対する手立てを明確にしたことにより、つまずきの多い児童も、あきらめずに粘り強く取り組むことができるようになった。
- 児童が説明したり交流したりする活動の目的を明確にしたことで、主体的に学ぶ姿が多く見られるようになり、学習内容の確実な定着につながった。